

1. 建物概要

建物名称	仮称S(株)牧之原工場 新築工事	BEE	1	BEEランク	B+	★★★
------	------------------	-----	---	--------	----	-----

2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.4	/5	ふつつ 
"災害に強いすおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5	ふつつ 
"すおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5	ふつつ 
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.7	/5	がんばろう 
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示 します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例 よい 4 点以上 	ふつつ 3 点以上  がんばろう 3 点未満 

3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。		内訳対応項目	
“ふじのくに地球温暖化対策実行計画”の推進(Global Warming)		得点	3.4
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④主要な配管は、いずれも期待耐用年数30以上。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 3.2 3.2.1 ③ Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 2.2.2 ④ 2.2.3 ④ 2.2.4 ④ 2.2.5 ④ 2.2.6 ④	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御 ④ 躯体材料の耐用年数 ⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 ⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 ⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔 ⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地の外周部に植栽を設置した。 ⑥空地率54.5%になるような配置計画とし、風の通り道に配慮。	Q-3 1 3 3.2	⑤ 生物環境の保全と創出 ⑥ 敷地内温熱環境の向上
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑧板金エリア上部にトップライト8ヶ所あり ⑨BEIm=0.61と、省エネ法の基準(0.75)を大きく上回っている。	LR-1 1 2 3 4 4.1 4.2	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑧ 自然エネルギー利用 ⑨ 設備システムの高効率化 ⑩ モニタリング ⑪ 運用管理体制
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪自動水栓および節水型便器を採用。 ⑫ビニル床シートは、グリーン購入法における特定調達品目を採用。 ⑬本物件に使われている断熱材は、いずれもODP=0,GWP=3	LR-2 1 1.1 1.2 1.2.1 1.2.2 2 2.1 2.2 2.3 2.4 2.5 2.6 3 3.1 3.2 3.2.1 3.2.2 3.2.3	⑪ 節水 ⑫ 雨水利用システム導入の有無 ⑬ 雑排水等利用システム導入の有無 ⑭ 材料使用量の削減 ⑮ 既存建築躯体等の継続使用 ⑯ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 ⑰ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 ⑱ 持続可能な森林から産出された木材 ⑲ 部材の再利用可能性向上への取組み ⑳ 有害物質を含まない材料の使用 ㉑ 消火剤 ㉒ 断熱材 ㉓ 冷媒
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭ライフサイクルCO2を、一般的な建物の83%に抑えている。 ⑮夏季の卓越風向について、見付面積比52%、隣等間隔指数3.45とし、風通しに配慮。	LR-3 1 2 2.2	⑭ 地球温暖化への配慮 ⑮ 温熱環境悪化の改善
“災害に強いすおか”の形成(Disaster)		得点	3.0
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰ 災害時に備え、受水槽には蛇口を設置し、非常用発電設備を設置した。 ⑱電気設備・通信設備における浸水の危険性がない。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 2.1.2 ⑯ 2.4 2.4.1 ⑰ 2.4.2 ⑰ 2.4.3 ⑰ 2.4.4 ⑰ 2.4.5 ⑰	⑯ 耐震性 ⑰ 免震・制振性能 ⑱ 空調・換気設備 ⑲ 給排水・衛生設備 ⑳ 電気設備 ㉑ 機械・配管支持方法 ㉒ 通信・情報設備
“すおかユニバーサルデザイン”の推進(Universal Design)		得点	3.0
	■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり) ⑲階高は1.2階と6m超、壁長さ比率0.06とし、空間にゆとりを持たせた。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲敷地外周部の各方位に防犯カメラを設置し、防犯性に配慮した。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑯⑰ 3 3.1 3.1.1 ⑲ 3.1.2 ⑲ Q-3 3 3.1 ⑲	⑯ ユニバーサルデザイン計画 ⑰ 階高のゆとり ⑱ 空間の形状・自由さ ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上
“緑化及び自然景観”の保全・回復(Nature)		得点	2.7
	■室外環境(敷地内)対策 (⑯生物環境の保全と創出/⑰まちなみ・景観への配慮/⑱敷地内温熱環境の向上) ⑯外構緑化指数20%分の外構緑化をしている。 ⑰建物の外装と配置は、周辺地域の景観に配慮したものとなる。 ■敷地外環境対策 (⑲持続可能な森林から産出された木材/⑱温熱環境悪化の改善) ⑱夏季の卓越風向について、見付面積比52%、隣等間隔指数3.45とし、風通しに配慮。	Q-3 1 2 3 3.2 LR-2 2 2.5 LR-3 2 2.2	⑯ 生物環境の保全と創出 ⑰ まちなみ景観への配慮 ⑱ 敷地内温熱環境の向上 ⑲ 持続可能な森林から産出された木材 ⑱ 温熱環境悪化の改善

CASBEE®-建築(新築)

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_速報版

■ 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v2.3.2)

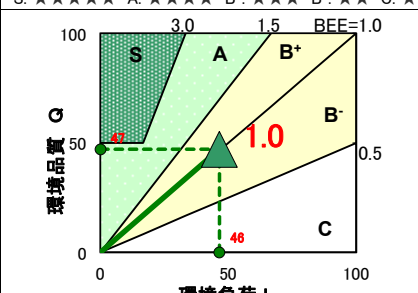
評価結果

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)S(株)牧之原工場 新築工事		階数	地上2F
建設地	静岡県牧之原市布引原字九の耕地		構造	S造
用途地域	準都市計画区域		平均居住人員	55 人
地域区分	7地域		年間使用時間	2,015 時間/年(想定値)
建物用途	工場		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年5月 予定		評価の実施日	2025年2月28日
敷地面積	13,936 m ²		作成者	石井 裕
建築面積	6,767 m ²		確認日	
延床面積	8,982 m ²		確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0

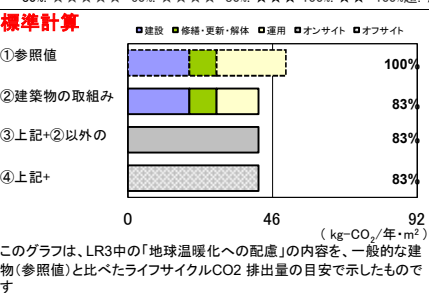
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★



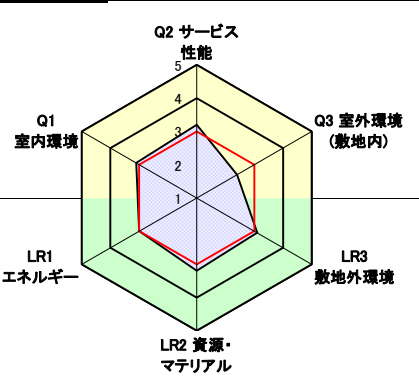
2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記②以外の ④上記+



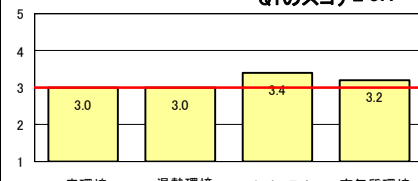
2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



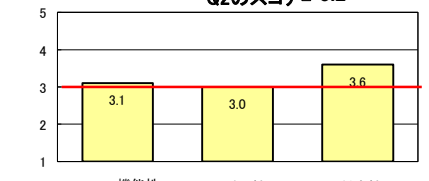
2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

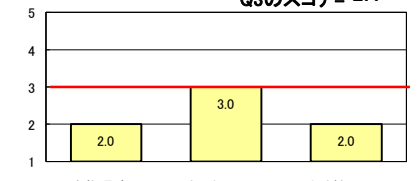
Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.1



Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2

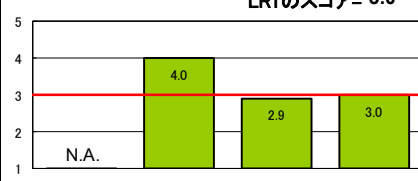


Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 2.4

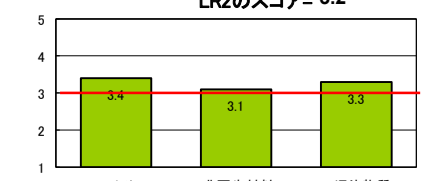


LR 環境負荷低減性

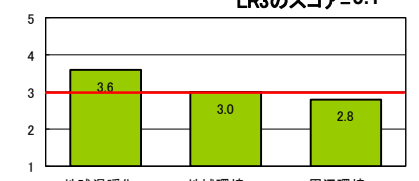
LR1 エネルギー LR1のスコア= 3.0



LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.2



LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.1



3 設計上の配慮事項

総合

これは、CASBEE静岡(2021年SDGs対応版)による評価結果である。

その他
(特になし)

Q1 室内環境

事務所に大きなサッシを2枚設置し、昼光率2.2を記録し、事務作業における光環境の向上に配慮した。

Q2 サービス性能

災害発生時等の対策を考慮し、受水槽には蛇口を取り付け、非常用発電設備を配置した。

Q3 室外環境(敷地内)

外構緑化面積20%分の外構緑化をしている。敷地外周部の各方位に防犯カメラを設置し、防犯性に配慮した。

LR1 エネルギー

板金エリア上部にトップライト8ヶ所を設置し、室上部からの自然採光を可能にした。また、BELm=0.61と、省エネ法の基準(0.75)を大きく上回る照明計画とした。

LR2 資源・マテリアル

本建築の水回りには、自動水栓および節水型便器を採用し、節水に努めた。また、断熱材はいずれもODP=0、GWP=3以下とし、オゾン層破壊しないようにした。

LR3 敷地外環境

夏季の卓越風向について、見付面積比52%、隣等間隔指数3.45とし、敷地内を通った風の回復・それによる敷地外への熱的影響低減に努めた。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される